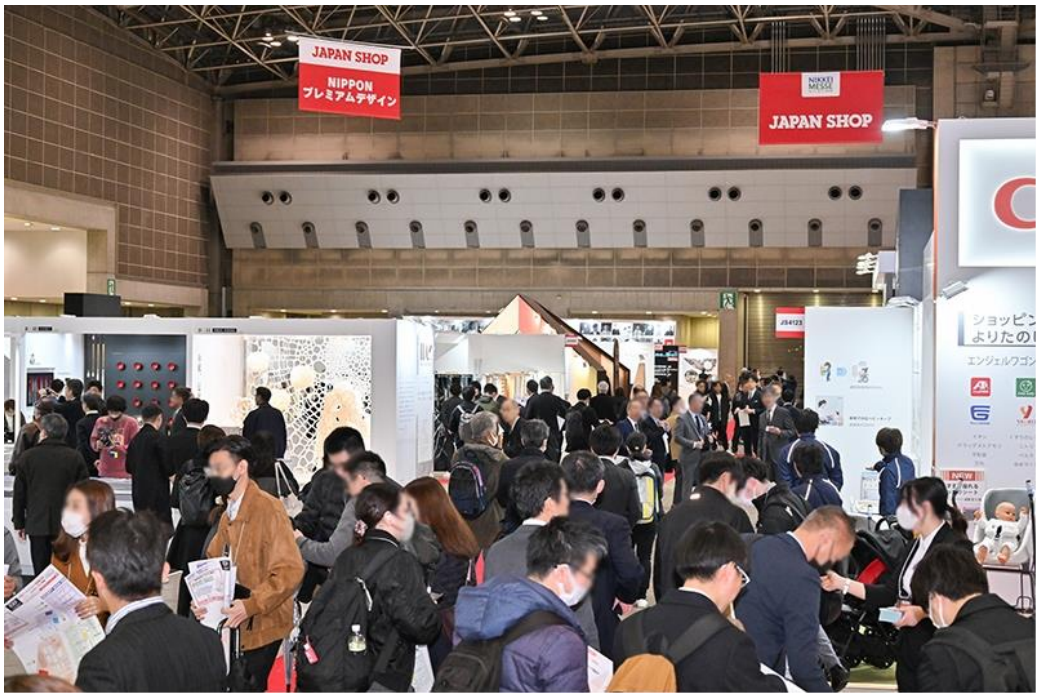
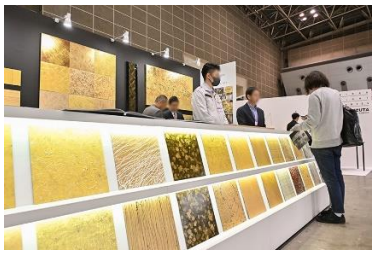
JAPAN SHOP　2024 会場レポート　vol.2（2024/3/14）

3 月 12 日からスタートした JAPAN SHOP 2024（第 53 回店舗総合見本市）。
最新の空間デザインやディスプレイ、また素材や店舗什器といった魅力的な空間づくりのための製品、ソリューションが一堂に会するこのイベントには、日本の伝統的な美意識を体感できる「NIPPON プレミアムデザイン」、また商空間の新しいかたちを提案する「JAPAN SHOP ＋Plus」といった特別展示が用意される。JAPAN SHOP 2024 レポート第 2 弾では、特別展示を中心にメイド・イン・ジャパンの実力をご覧いただこう。



次代につなぐメイド・イン・ジャパンのモノづくり―NIPPON プレミアムデザイン



NIPPON プレミアムデザインのなかに白を基調にデザインされた「IDM」がある。
「IDM」は、「Interior Design Meeting」の頭文字で、インテリアの発展に寄与すべく連携プロジェクトの推進の場として 2017 年からスタートした 26 のデザイン関連団体の集合体。日本各地に連綿と続くモノづくりの技とデザイナーたちとの交流を通じて誕生した新たな作品を集めている。IDM ブースには 21 社が参加、伝統のデザインと技術を生かした特長ある素材や建材、インテリアが集合した。

金網を「金網」として捉えないデザイン

衝撃吸収性と優れた耐久性を備え、その利便性で日本中どこででも目にするひし形金網。共和鋼業株式会社では「X-Lab」を設立し、さまざまな角度からこの素材の可能性を深堀する。今回は小さくカットした金網をアクリルボックスに収めて積み上げた、デザイナー三宅真人さんによる作品「金網を〇む」を発表。三宅さんは金網を「なにかキラキラしたもの」

と認識することで、見る角度によってランダムに輝きを変え、思いがけない表情を見せる素材として捉えたという。「〇」にどんな文字を充てるのかは見る人次第とのことだ。

背景には金網の輝きと相性のいいネオンカラーの、日本的なモチーフである錦鯉を置いた

伝統技術を次代へ伝える葉脈への箔押し

仏壇金具、社寺金物、寺院仏具など、多くの神社仏閣で錺（かざり）金具を制作してきた株式会社 金箔押 山村が、伝統技術を次代に伝えるべく、新たに創出したのが葉脈への箔押しである。重曹に葉を浸し、残った葉脈に職人が一枚ずつ丁寧に箔押しすることで、これまでにない透け感を生み出した。箔に使用されるのは金、銀、銅、プラチナで、金属による変化も見どころ。また葉は自然のものゆえ同じかたちのものはないことも、唯一無二の魅力を発信している。

手前から銅、金、プラチナで箔押しされた葉を使ったランプシェードを展示する。

樹種や葉の大きさ、箔の種類によって表情は多彩

不燃認定を獲得し、用途も幅広く

越前和紙を使ったインテリア向け和紙を提案する株式会社杉原商店。和紙をふんだんに使った細胞をイメージする作品を展示し、その独自の質感と表現力に国内外の来場者の注目を集める。同社はインテリア和紙を提案し、海外を中心としたホテルをはじめとしたさまざまな施設で導入されているが、令和元年に不燃認定を受けたことで採用の幅もぐっと広がったそうだ。和紙に漆塗りを施した「うる和紙」など、オリジナル製品も紹介。

細胞からインスピレーションを得て制作されたアート作品を展示する

幅広い用途に対応する和紙を揃える

100 年超の歴史を誇る越前和紙の老舗株式会社五十嵐製紙。伝統的な技法を発展させ、二次元から三次元的な表現までを可能にし、「和紙の可能性は無限大」と胸を張る。手漉き和紙は小さなものから最大 10mまで対応可能で、巨大な壁面で空間を引き立てる。また和紙の風合いを損なわずに撥水加工を施したり、樹脂を含浸させるなど、レストランや浴槽といった場所での利用もできる和紙を提案している。一方 100%自然に還る植物由来の紙文具「FoodPaper」やガラスと和紙を組み合わせた「和紙ガラス」などの素材も開発している。

和紙の表現の多彩さを紹介するブース

ガラスに和紙を張り付けた「和紙ガラス」。

ちりめん細工のプレミアムな造花

JAPAN SHOP 2024 が初お目見えとなったのが、京都市で 50 年以上にわたりちりめん細工を手掛けてきた株式会社夢み屋だ。今回、手仕事による縫製技術を生かした「リュクスタイル」を発表した。花を立体的にかたどった 3 色 6 種類のモチーフを用意し、用途に合わせてオリジナルの組み合わせが楽しめる。柔らかな色合いと、ちりめん特有のしぼ感と相まって柔らかな雰囲気を演出する。結婚式の待合室やレストランの個室などの壁面を飾る、またプレゼントの装飾に使用するなど、クリエーターによって用途は増えていくだろう。

すべて手作りのため、少しずつ表情が異なるところも「リュクスタイル」の魅力

花の色はホワイト、ピンク、ブルーの 3 色。
花とリーフは 7 種類あり、
自由に組み合わせて、オリジナルのデコレーションが製作できる

絹の美しさをインテリアに

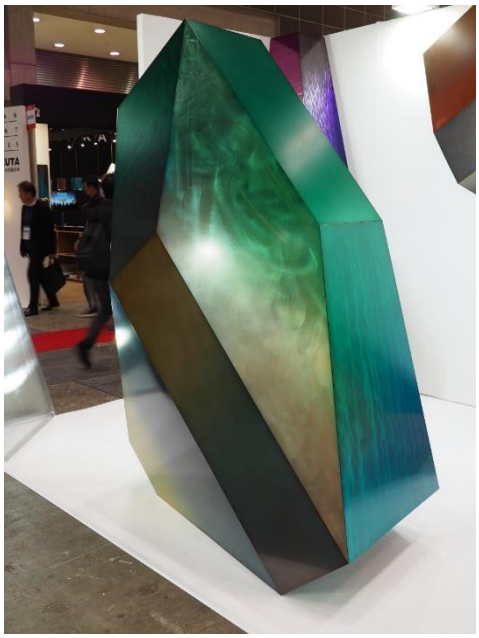
株式会社伊と幸は、白生地メーカーとして 1931 年に創業。白生地とは着物用の生地のことで、繭から紡いだ糸をその色のまま織り上げたものを指す。日本の着物文化の礎であるこの白生地を使い、インテリアへと昇華したのが「絹ガラス」だ。白生地に伝統的な文様を組みあわせた独自の図案が刺繍された絹織物を、2 枚のガラスと 2 枚の中間膜で挟み圧着した構造を持つ。ガラスに封入することで空気や紫外線の影響がなく、絹の退色や劣化を防ぎ、絹の美しさをいつまでも楽しむことができる。

白生地のしなやかさ、光沢が感じられるブース

描かれる文様は、社内の図案家がデザインしている。右奥は「玉繭」と
呼ばれる特殊な繭から紡がれた不均一な節糸を織り込んだ生地を使用

粉体塗装によるグラデーション発色の第一人者

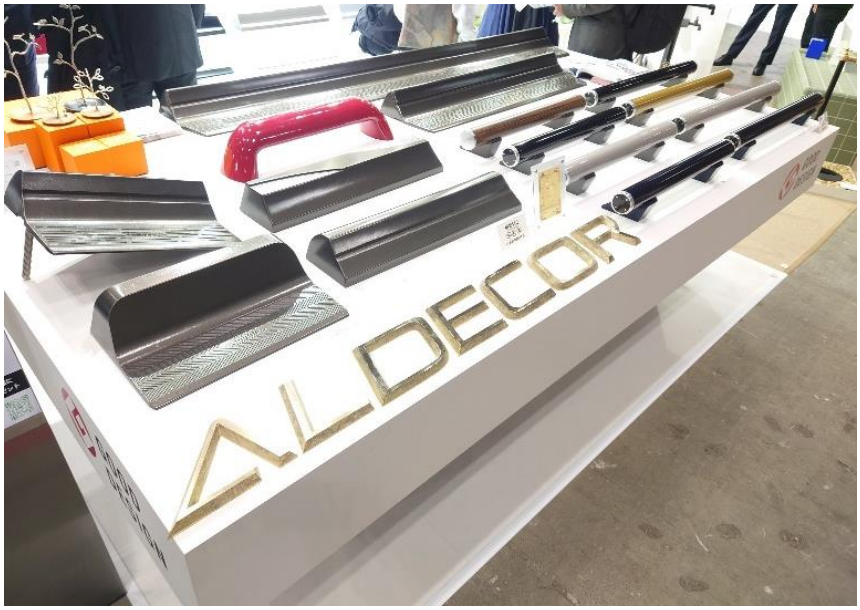
一般的に難しいとされるグラデーションの粉体塗装。こちらの第一人者といえるのが広島県の有限会社シリウスが展開する「CYUON」だ。カラークリア粉体塗料を使用し、グラデーションの手法を独自開発。金属の素材感を生かした「トランスルーセントスケープカラー」をラインナップに加えて、発色の幅を広げている。空間のみならずプロダクトでも使用できるため、表現方法は多彩。デザイナーのイメージを再現することを大切に、新しい表現に挑戦し続けている。



金属に施された研磨模様の風合いを生かす「トランスルーセントスケープカラー」

店舗デザインに統一感をもたらす車止め

1947 年創業の仏具メーカー、株式会社高田製作所がこれまで培ってきた技術力を生かし、誕生したのが車止めブランド「ALDECOR」だ。仏具づくりのノウハウは、堅牢な形状を鋳物でつくること、美しい研磨、高品質な旋盤加工に発揮されるという。これらを併せ持つことで、堅牢かつユニークな形状の実現と発色の良さ、豊富な色合いを可能にしている。また非常に軽量なため、製造現場での女性をはじめとする職人たちの負担の軽減につながっているという。



一見しただけでは車止めとは思えない、豊富なデザインとカラーリングが特徴

ユニークかつスタイリッシュな水栓

多彩なエクステリア関連用品を揃える株式会社オンリーワンクラブ。今回は、店舗や公園、幼稚園といったユーザーのニーズに応えるユニークなデザイン水栓柱を提案する。なかでも目を引くのが色鉛筆をモチーフにした「IRO ENNPITSU」。取り外し可能な蛇口を求める声にこたえた新製品もラインナップする。ほかにもいま主流となっている細長いタイプのデザイン水栓を紹介している。

「IRO ENPITSU」は全 8 色。ピラータイプも用意されているので、さまざまな組み合わせに対応する

自動販売機に生地から焼き上げるピザが登場

特別展示「JAPAN SHOP +Plus」では新しい店舗のスタイル、ウェルビーイングな空間づくりを提案する。JUKI プロサーブ株式会社が用意したのはピザを焼き上げる自動販機だ。夜間でも温かいもの、コンビニ以外の食事が楽しみたいという声にこたえた。加工時間は冷凍状態から 4〜5 分。パイ生地はイタリア産の小麦粉を使った手ごねの本格派で、価格はデリバリーピザの半額程度で提供が可能できるという。日本の気候に合った仕様にすること、またメンテナンスのしやすさに注力。24 時間体制の事業者や学生寮、駅や空港、宿泊施設など、導入が期待できる施設は多い。

生地はもっちりとした触感が楽しめるナポリ風で、2 種類各 28 枚ずつ収納。イベント中は出来立てピザを試食できる

日本人のためのアウトドアリビング

日本のアウトドアリビングを充実させたいと、ソファー、ダイニング、キッチン、ラグ、照明など、屋外で使用できるさまざまなプロダクツを開発するのが株式会社 ANKER & ZIMMER。その特徴は日本人の暮らしやサイズ感に合ったアイテムが揃うこと。なかでも注目が同社の「パーゴラコレクション」でつくられたブースに置かれるアウトドアキッチンだ。フレームシステムを用いてシンクや引き出しなど、自在に組み合わせることができる。一方でチーク材を使った素朴さを感じるソーラーライトも用意され、手軽にアウトドア気分を盛り上げてくれる。

同社オリジナルの「パーゴラコレクション」。アルミニウム製で、1cm単位での施工に対応する

キッチンシステムはフレームとパーツを組み合わせて完成。素材の質感にこだわったつくりで、オープンキッチンタイプの店舗にも似合う。天板に乗るのはチーク材でつくられたソーラーライト。摺りガラスがLED の光を柔らかくする

日本人の丁寧な仕事とアイデアが生きる内外装材

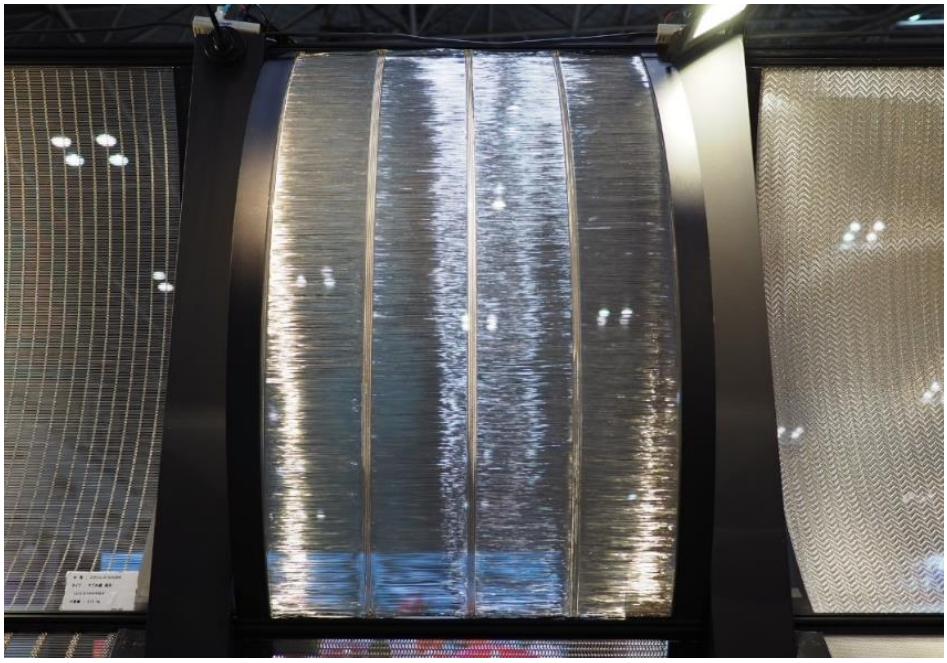
ここからはアイデアが生きる装飾用の素材を紹介したい。ひとつが株式会社モザイクジャパンの凝灰岩と釉薬を使った石材だ。同社はガラスや石材加工、モザイク、釉薬と焼成といったさまざまなノウハウを結集し、オンリーワンのモノづくりを目指しているが、今回発表したのは凝灰岩の強さと釉薬の発色を活かした新作「コーラルガイア」。凝灰岩に釉薬をかけ、1200 度で焼き上げてつくられるのだが、石板を組み合わせることで写真のように大きなサイズでも対応できるのが魅力。一方、細長くカットしたタイプも用意されており、組み合わせての使用も可能になっている。

凝灰岩に釉薬をかけて 1200 度で焼き上げる「コーラルガイア」。硬度が高く、
床材に最適だ。板状の石は増減が可能

カットタイプも用意。唯一無二の発色と風合いが楽しめるオリジナリティーあふれる石材だ

もう一社が松原金属の提案する「MK Design Mesh」である。同社が主に製造しているのは工場のコンベアやろ過システムに使う高品位な金属製の部材だ。しかしこの形状が他には

ないデザイン性があると評判になり、内装材としての受注が生まれた経緯がある。さまざまなメッシュが並ぶなか、今回は注文を受けて作ったオリジナル製品もラインナップしている。



中央が新製品。横糸のみの内装材という要望に応えて製作。

左から直径0.07mm、0.04mm、0.1mmの金属糸で編まれたメッシュ。手作業によりシワ加工を施した。握り方によりシワの細かさや形を調整できる

新たな才能に出会う場所として

JCD（一般社団法人 日本商環境デザイン協会）主催により開催されているのが「注目される空間デザイナー33 人展／U45」だ。JCD はインテリアデザイナー、建築家、空間演出デザイナー、照明デザイナー、グラフィックデザイナーなどにより構成されるデザイナーの団体。その JCD が、いまもっとも注目され、その才能に触れておくべき 33 人のクリエーターたちを選出し、その作品が一堂に会する。商環境に携わる者にとって、一度は見ておくべきイベントであり、来場者の多さも注目度を物語る。「JCD TALK LOUNGE」では注目のデザイナーによるトークや作品のプレゼンテーションなどを行うほか、「PRODUCT OF THE YEAR 2023 受賞製品展」もチェックされたい。

若手建築家、空間デザイナーが集うネットワークの場に

選ばれたクリエーターらの模型や作品を通じたアイデアや発想との出会いの場に

フリーライター　小泉庸子